

クリニックレター 2017年9-10月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

漢方治療の特徴を知りましょう

1:「異病同治」と「同病異治」

漢方治療の特徴の一つとして、「一つの方剤でさまざまな症状や疾患に対応することがあり、これを「異病同治」と呼んでいます。例えば、風邪の薬で有名な「葛根湯」は、肩こりの薬としても使いますし、まれではありますが、下痢の治療薬としても用いられることがあります。落語に出てくる「葛根湯医者」というのは、どんな病気にも葛根湯を処方する医者や言葉を揶揄した言葉ですが、これも、あながち間違いとは言えないのです。「芍帰膠艾湯」という処方、お薬の効能書きを見ると「出血性痔核」に使われるとありますが、私は、女性の月経過多によく使っています。あるいは、「真武湯」は体が冷えたときの下痢に有効ですが、めまいにも用いられます。

一方、一つの症状や疾患に対して全く違った方剤を用いることを「同病異治」といいます。例えば、熱を冷ます作用の強い「黄連解毒湯」と、身体を温める「八味地黄丸」はどちらも高血圧に対して用いる処方です。風邪を引いたときにも、悪寒があって汗がでない時は身体をあたためる「麻黄附子細辛湯」や「桂枝湯」を使いますし、発汗があって頭痛や口乾がある場合は、熱を冷ます薬である「銀翹散」などを用いるのです。疲労感を訴える患者さんに対しても、単に疲労回復剤を出すだけでなく、気のめぐりが悪い人には「理気剤」と使い、体が冷えて疲れやすい人には「温裏剤」というように、患者さんの「証」つまり、体質や環境や症状を総合した病態に応じてきめの細かい治療をおこなうのも漢方の特徴です。

2:「標治」と「本治」

患者さんが現在不快に感じている症状を改善するのが「標治」、その症状を引き起こす原因(体質)を改善するのが「本治」といいます。そのケースによって「先標後本」「標本同治」などの異なった治療法を用います。

例えば、「めまい」を主訴として来院された場合、まずは症状を改善する必要がありますから、「苓桂朮甘湯」や「真武湯」「半夏白朮天麻湯」などのめまいに対する薬を用いますが、めまいを起ししやすい背景として、胃腸が弱い、貧血がある、



イライラしやすい、冷えが強いなどの体質がある場合は、その体質を改善することによって、めまいの再発を防ぐ治療法をおこなうのです。標治と本治の順番をどうするかは医師の判断となりますが、急性病では先標後本、慢性病では標同治の治療をおこなうことが一般的です。

3:「祛邪」と「扶正」

「六味地黄丸」という処方があります。1100年代の中国で創られた処方ですが、三補三瀉と呼ばれるように、三種類の気力や体力を補う生薬(地黄・山薬・山茱萸)と三種類の身体の中の余分なものを追い出す生薬(茯苓・牡丹皮・沢瀉)がバランスよく含まれています。つまり、足らない部分は補い(扶正)、余分なものは瀉す(祛邪)働きがあり、「整体論」、つまり、身体のバランスを整えることが(西洋医学にはない)漢方治療の特徴である、ということの象徴的な処方一つです。もちろん、実際の治療の場においては、祛邪を優先する場合(先攻後補)、扶正を優先する場合(先補後攻)どちらも同時におこなう場合(攻補兼施)があります。例えば、病気の過程で体力が著しく低下し、腸の動きが弱まって強い便秘になった時は、まず、大承気湯などの比較的強い下剤で一時的に通便をおこない、そのあとに補中益気湯などを用いて体力を補う治療をすることもありますし、逆パターンの治療をおこなうこともあります。まさに、治療をおこなう医師の技量が問われる場面でもあるのです。

このように、漢方治療は、「○○病に□□湯」というような機械的な病名治療ではなく(漢方を勉強していない多くの医師はこのタイプです)、患者さんの体質、病気の原因、環境因子などを総合的に考え、治療に導いていく、というダイナミックな方法論が特徴なのです。



自宅でできるウエルエイジングのための筋肉トレーニング&ストレッチ

安全で確実な効果を得るために、内科医(私)・整形外科医とプロのトレーナーとのコラボで作上げたDVDです。充実した毎日を送るために、是非、ご活用ください。1枚¥1,500 受付でお求めいただけます。

お車で来院される患者様へ
歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及び、クリニック周辺の道路には、絶対に車を駐車されないようお願いいたします。駐車場で長時間のアイドリングもお控えください。

クリニックレターのバックナンバーをお読みになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。